

この代徳恩仁井田十井堀を暖表沃の浪人衆
しくとて集り兜の緒をソクソクと二万余人
戸村柵陣に属して弟宣と水戸と市を南
国大馬よりいり一層の篇へいり柵合小陣
とて合陣へ使ふをえてら進りれい常備兵に
市松千介親右人の旗將と有具一白川おし
旗本八千と率て長沼お市陣を居らるこゝお新
津右近の徳信の時よりお印河の者おりり形勢
常備兵といふかて云く先の所歟徳信の所出
陣の時八千を具せしとるる例然に其比お市

親の百騎兵を初めお鶴たお市あつたを愛信
はへ又近きと天下を中けりて依て戦を志し
て上老切のまわりこゝを飛りて若くは望井陣
りり頼く門旗お市人おをわらる（まゝと）
りれい常備兵水戸方てあつてい旗本といふ
常備兵に陣をえしとてりり依て新津右近
は浪刑お市上將とて甘利お市とて是れ
六千余人旗本の後お市

一市に罷りた内常生またあつた外地お市たあ志
賀お市たあつたの常生浪人